

実務実習前後に実施したオンラインによる参加型学修の工夫、成果、課題の報告

栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学
グループ 分野連携アクティブ・ラーニング対話集会

2022年1月22日（土）

帝京平成大学薬学部

菊地 真実

本発表における対象授業について

- **帝京平成大学薬学部におけるセミナー科目は、「薬剤師としての心構え」や「患者・生活者本位の視点」を身につけることを目標とした本学薬学部の態度教育の主軸となる科目**であり、学生は6年間に亘って学修する。
- **すべてのセミナー科目は、個人ワーク、グループワーク、スモール・グループ・ディスカッション（以下SGD）、発表といった参加型学修を中心にプログラムが構築されている。**
- **5年次、6年次に配当されるセミナー科目（アドバンスセミナーⅢおよびアドバンスセミナーⅣ）は、実務実習前後に集中講義として学生は受講する。**実習前には実習で起こりうる経験への準備、実習後には実習での経験の振り返りを行なう。
- **本発表では、主にアドバンスセミナーⅢを対象授業として発表する。**アドバンスセミナーⅢでは、「**薬剤師のモラルジレンマ**」への対応という目的で、**薬剤師が遭遇するであろうモラルジレンマ事例**に対して、**臨床倫理の4分割表**を用いて、**薬剤師としての適切な対応を考えることを主眼とし、個人ワーク、SGD、発表で授業を構成している。**

2020年度 授業スケジュール

	学生数		実務実習 前授業	実務実習 (薬局・病院)	実務実習 後授業	地域医療見学・ 体験実習*1	地域医療見 学・体験実習 後授業
A	53	Ⅲ	2/3,4	2/25~8/9	8/19	中止	
		Ⅳ	2/5,7		8/20		
B	65	Ⅲ	5/11,12	5/25~11/9	11/9	中止	
		Ⅳ	5/13,14		11/10		
C	83	Ⅲ	8/3,4	8/24 ~2021.2/14	2021.2/16	中止	
		Ⅳ	8/6,7		2021.2/17		

*1 地域医療見学体験実習とは、薬局、病院での実務実習を終了した5年次の学全生が、医師、看護師の居宅療養患者宅への訪問同行、老人保健施設での実地実習などのいずれかに参加し、2日間に亘り、薬剤師以外の指導者のもと、地域医療における医療・介護専門職らの患者・利用者への支援体制を見学・体験し、近未来の薬剤師の地域医療における役割を展望することを目的とした実習である。2020年度は、地域医療見学・体験実習に関連する映像視聴とワークによる代替授業を行なった。

① 実務実習前授業

1. 薬剤師のモラルジレンマ（臨床倫理）について、および臨床倫理の4分割表に関する講義（2限）

オンデマンド講義

2. 教員から提示されたモラルジレンマ事例を、個人ワークとして、臨床倫理の4分割表を用いて事例の整理をした後、事例の問題点を抽出、問題を解決するために必要な情報を検討、そして薬剤師としてどのような対応をすることが望ましいかについて考える。（3限）

LMSを通してレポートとして個人ワークを提出

3. その後、4～5名でSGDを行い、課題として提示されたモラルジレンマ事例についてグループ内でさらに深め、発表用ポスターを作成する。最後にグループ発表を行い、学生間で相互評価を行う。

（4～5限）

タイムコントロール

代替
S
G
D

LMSの機能を用いて、グループメンバーのレポートを相互閲覧し、コメントを投稿

閲覧したグループメンバーのレポートや寄せられたコメントを参考に、LMSを通してブラッシュアップレポートとして個人ワークを再提出



オンライン授業でのSGD、グループ発表の代替方法と工夫点

学修内容	対面授業	オンライン授業での代替方法	工夫点
臨床倫理4分割表による事例整理、問題点抽出、必要な情報の検討、薬剤師としての対応を考える。	SGD	1. 指定時間までにレポートとして個人ワークを提出 2. LMSのレポート相互閲覧機能によりグループ内でレポートを相互閲覧 3. グループ内で相互にレポートにコメントを投稿	【授業3日前】 LMSを通して以下を提示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の授業の流れ ・ 班分け表 ・ LMSでのSGDへの参加方法 【当日】 担当教員のメールアドレスを明示し、質問に素早く対処
	グループ発表	グループメンバーからのコメントを参考にレポートをブラッシュアップして再提出	ブラッシュアップレポートの提出時間を授業後でも可能と設定

代替SGDについての評価



■ 個人ワーク

対面授業と比較して、学生の**個人ワークの文字数が多く内容的に充実**していた。ワードファイルでの作成の方が手書き作成よりも行いやすかったことが一因と考えられる。

■ 代替SGD（レポート相互閲覧）

「自分では気づかなかったので参考としたい」といったコメントが多く見られ、他の学生のレポートを閲覧することにより、**文字化されていることから、明確に他人の意見を受け取り、自らの意見と比較し、さらに考えるきっかけとなった**ことが考えられる。

寄せられた「○○についてもう少し説明をしてほしい。」といったコメントに対して、コメントを返すことによって、学生間のやり取りも行なわれており、**このようなやり取りは、双方向の意見交換となり、SGDの実践にも近い状況が得られた**とも考えられる。

② 実務実習後授業

1. 実務実習中に学生自身が経験した、または実務実習中に指導薬剤師の方が経験したモラルジレンマ事例について各自がレポートとしてまとめる。(2限)

LMSを通してレポートとして個人ワークを提出

2. グループとして検討すべき一事例を選び、実務実習前に行った方法と同様に、臨床倫理の4分割表により事例を整理し、問題点の抽出、問題解決のための必要な情報の検討、そして薬剤師としての対応についてSGDを通して考え、グループとしてポスターを作成する。(3~4限)

タイムコントロール

あらかじめ、LMSの機能を用いてグループメンバーのレポートを相互閲覧し、その後のSGDは、テレビ会議システムの小会議室で。

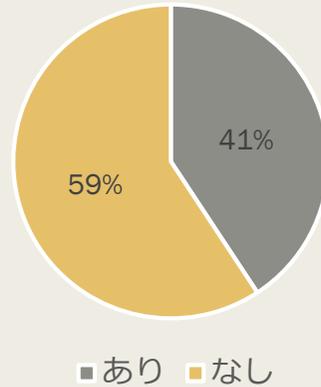
3. ポスター発表を行い、学生間で相互評価を行う。
(5限)

テレビ会議システムの大会議室で、成果物発表および学生間での相互評価。

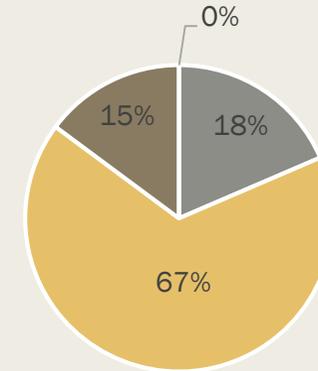


31名の受講生のうち28名より回答があり、発表への承諾を得た27名の結果をまとめた。

テレビ会議への参加経験 n=27

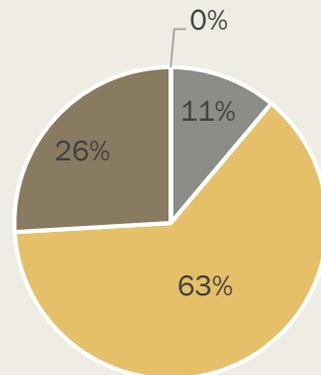


テレビ会議システムへの参加 n=27



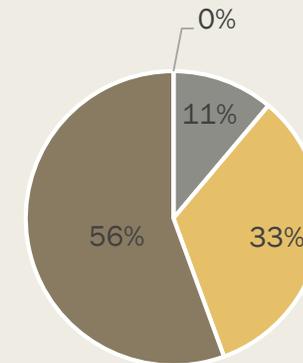
- まったく問題なかった
- まあ問題なかった
- やや問題があった
- 問題があった

テレビ会議システムでのSGD n=27



- まったく問題なかった
- まあ問題なかった
- やや問題があった
- 問題があった

対面のSGDと比較して n=27



- 対面と変わらない
- まあ変わりない
- 対面のほうがいい
- 対面よりよかった

テレビ会議システムを用いてのSGDへの感想（回答者21名28件）

テレビ会議システムでのSGDへの肯定的受容（11）	音声や画面に遅れが生じることもほぼなく、 比較的スムーズに行えたので良かったです。 発表資料や個人の資料は普段より見やすかったり、声も聴き取りやすい、周りの音などを気にしなくて良く、集中できる環境下であり、慣れていない部分もあるが普段通り行うことができたので、teamsでの授業も 思っていたより全然良いものだとも思いました。
対面と比較したときのやりづらさ（7）	問題なくはできたが、 対面の方がやりやすかった。 成果物を一気に見るのが難しいため、 意見をまとめるのに時間がかかる。
余裕ある授業スケジュールの要望（5）	同時に話せる人数が一人であり、資料の共有も同時に行えないため、対面のSGDよりも時間がかかります。そのため、 タイムスケジュールにもう少し余裕が欲しい と思いました。 通信環境が悪いことを考慮した レポート提出期限の延長を検討してほしい です。
状況への適応の必要性の自覚（2）	SGDなど行う際は対面が良いと思った。しかし このような状況なので自分自身も慣れていくしかない と思った。 直接相手の顔が見れないため積極的に発現しないと自分の考えや意見を言えないまま終わってしまうため 自主的に発現する力が鍛えられると感じました。
感染の心配が無く安心（2）	コロナの心配がないのはありがたいので引き続き行ってほしいと感じた。 感染拡大防止を考慮した今回のアドセミの講義はよかった と思います。
準備資料による安心感（1）	あらかじめ操作方法などの資料を添付してくださっていたので 進めやすかったです。

全体を通しての課題と今後の展望

□ 課題

- 対面授業よりゆとりあるタイムスケジュールでの進行の必要性
通信状況への配慮
- 対面授業以上の学生への配慮の必要性
当日の万が一のトラブルへの配慮、学生のスキルの差への配慮、それらを踏まえた上での事前準備
- 教員同士のオンライン授業に関する経験、知識の共有の促進

□ 今後の展望

- 対面授業であっても、学生を複数教室に分けてSGDを行い、教室間をテレビ会議システムで繋ぎ、全体発表を行なうなど、テレビ会議システムの活用の工夫。
- 今後は、③への対応が必要であり、コロナ禍という状況下に置かれたことにより急速に進むオンライン授業への取組みの流れの中で、地域医療見学・体験実習の運用方法についての検討の必要性

